

## Tグループ（人間関係トレーニング）第27回

### -深いかかわりから学ぶ-

日本の各地から集まったさまざまな人々と 八ヶ岳を目の前に仰ぐ清里の豊かな自然は あなたが、人と人との関わりを探究するのを 豊かにさ  
 せてくれるでしょう。

- 本当の自分自身でいられることの深い充足感
- 人と人が関わるプロセスの変化に富んだ姿
- 対話の中で人の心に触れた瞬間の感動
- 深いところで自己と対面した驚き
- ズッシリとした学びの手応え

担当者	楠本和彦（南山大学人文学部心理人間学科教授） 中村和彦（南山大学人文学部心理人間学科教授） 津村俊充（南山大学人文学部心理人間学科教授） 坂中正義（南山大学人文学部心理人間学科教授）
概要	人間関係の体験学習の中でも、特に密度の濃い体験のできるトレーニングが「Tグループ」とよばれる集中的集団体験です。その中から、 深く豊かな気づきや学びが生まれます。 10名程度が1グループになって、自由な雰囲気の中で対話を続けていくと、自己理解や他者理解、受容や共感、傾聴や援助関係、コミュニ ケーションやグループプロセス、などにかかわる様々な現象が起こります。その時その場に起こっている人間関係や自分や他者のありよ うについて、気づいたことや感じたことをお互いにフィードバックしあうことによって、生の人間関係から学ぶことが可能になるのです。 Tグループに代表されるラボラトリー方式の体験学習に参加し学ぶことを通して、現代社会の中に信頼の風土や人と人とのつながりを創 り出す変革推進体（change agent）として、人々とともに生きられるようになることが期待されています。  ●Tグループについて Tグループとは、Training Groupの略であり、人間関係トレーニングの原点かつ源であるトレーニング方法です。具体的には、メンバー7 ～10人とスタッフ2人が1つのグループを組み、同じグループで1週間を過ごしていく中で生じる人間関係自体を題材にしながら、ともに学 びともに成長することに取り組むトレーニングです。 歴史：Tグループの始まりは1946年、グループダイナミクス研究者として有名なK. レヴィンを中心とした研究者たちが開いたワーク ショップでした。その後、アメリカ合衆国N T L（National Training Laboratory）でTグループが継続的に開催され、現在でも核（コア） プログラムとして実施されています（Human Interaction Laboratoryという名称で実施）。 日本には、1950年代後半に紹介され、立教大学キリスト教教育研究所（J I C E）によるヒューマン・リレーションズ・ラブとして実践 が重ねられました。 南山大学人間関係研究センターでは、Tグループ本来の発想である「人間尊重」をベースとしたグループアプローチとして、前身である南 山短期大学人間関係科時代から通算30年あまり、このTグループを実施し続けています。  他のトレーニングとの違い： Tグループは、合宿制で行う集中型のトレーニングです。したがって、自分自身のあり方、対人関係の持ち方、グループダイナミクスに ついてなど、非常に深く学ぶことができます。6日間という長いプログラムで実施するため、他のメンバーとも深い関わりができ、そこか ら深い気づきを得ることができます。また、ふりかえりの時間が充実しているのも特徴となっています。
日程	2015年3月13日（金）～3月18日（水） 5泊6日 フォローアップ：2015年6月21日（日） 予定 10：00～16：00（南山大学 D棟）
定員	18名
会場	（財）KEEP協会・清泉寮 〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里3545
受講料	受講料 78,000円（税込） 滞在費 61,250円（税込） 予定（ツイン利用、宿泊・食事含む）※現地徴収
メルマガ 講座報告	<p style="text-align: right;">コーディネーター 楠本和彦 記</p> 「第27回人間関係トレーニング -Tグループ-」が、2015年3月13日～18日（5泊6日）の日程で、清里清泉寮にて開 催されました。 参加者は、オブザーバーも含めて、20名。スタッフは5名でした。 講座終了後に記入していただいたアンケートによると、多くの参加者の方が、この講座の学びについて、高い満足感や 意味深さを感じられていることがわかります。学びや気づきの内容として、プロセスから学ぶ学び方、自己理解や他者理 解の深まり、関わりを通してグループや個人が成長していくこと、フィードバックの難しさと大切さなど、人間関係にお ける重要なポイントが挙げられています。 スタッフにとっても、貴重な学びの体験でした。 私には、一個人として、またトレーナーとして、グループの中で十分に生きた感覚や様々な気づきがありました。 ラボラトリーに集ったすべての方への感謝の念を記し、この報告を終えたいと思います。 ありがとうございました。  <p style="text-align: right;">コーディネーター：楠本和彦                  講座担当者：楠本・中村・津村・坂中</p>